



11

11

11

11

11

KANTAI-COLLECTION UNOFFICIAL FANBOOK

MUSASHI-NAGATO GIRLSLOVE ANTHOLOGY



## むさながとは

『艦隊これくしょん』における『武蔵』と『長門』のカップリング。  
共に武人肌のイケメン扱いされることの多い戦艦同士。  
他のカップリングでは攻め／タチ扱いの多い長門が、  
性的に奔放で性能的にも格上の武蔵に対しては受け／ネコになることが  
多いという特徴のあるカップリングでもある。(出典:ピクシブ百科事典)

当アンソロジーはそんな肉食系百合むさながを愛する執筆陣が、  
ひたすら欲望の赴くままにリビドーを注ぎ込んでいる内容となっております。

その為、特殊嗜好表現を含む作品も少なくはありません。

(へそ責め・顔面騎乗・水責め・バイオレンス描写・ふたなり等)

主に上記の中で苦手なものがある方はご注意ください。



18歳以下の方は観覧をご遠慮ください。  
また、未成年の方への譲渡はお止めください。

武蔵×長門 アンソロジー

# ビースト・エモーション

# CONTENTS

- 3P 前置き  
4P 目次
- 5P～ 池下真上 ※R-18 ※ヘソ責め・顔面騎乗  
37P～ だんちょう  
43P～ 鮭の骨  
50P 諒 B  
51P のぎぐちこひろ  
52P 瓜生  
54P 神月紫苑 ※R-18  
55P camo ※R-18 ※ふたなり  
56P～ あつや ※R-18 ※ふたなり  
65P～ うすかわ ※R-18 ※ふたなり  
71P～ つづきますみ ※R-18 ※水責め・顔面騎乗
- 82P～ 執筆者コメント  
85P あとがき  
86P 奥付

さあ、行くぞ

撃ち方ア…  
始めツ!!

…はあ





懲りずにまた腹を立ててるのか

やっつけられるか!!

なんだ武蔵



当たり前だ!!  
来る日も来る日も  
演習ばかりなんだぜ!?

私は同胞をペイント弾で撃つ為に建造された訳じゃないんだ!!



ふん……

チツ

武蔵は長崎出身だろう？  
丁度美味しいカステラが  
手に入ったんだ



ピュ



たまには  
一緒にどうだ？

ニコッ



あっはっは！  
流石だな！

痛っ

カステラは好きだ！  
是非一緒にさせて頂こう！





今日は陸奥の姿を  
めっきり見かけないが？

…そういえば

ああ、陸奥のヤツ  
今日は夜まで  
提督の出張のお供だと  
言っていたぞ



…ふうん  
そうか、大変だな

はむ

武蔵が毎日  
演習でペイント弾を  
撃つように

陸奥だって  
実戦ばかりしている  
訳でないという事さ

長門、お前は良いさ  
いつだって攻略作戦の  
旗艦はお前だろう。

私は普段実戦すら  
出してもらえんのだ

そう言うな。  
お前が出撃しない  
ということとは

今のところは  
平和だという証だ

いざ決戦となった時  
力になれるぬのでは  
それこそ価値がない

…まあ  
その通りだ

ぐうの音も出ないぜ

まあ  
そんな感じだ

甘いものは良い。  
心が落ち着くからな。  
好きなだけ食べるといい。





時に長門よ

お前は陸奥を  
抱いたことは  
あるのか？

なん  
なんだ？

はあ!?



ふーん  
そうか

では提督とも？



なっ  
何言ってるんだ！

：私と陸奥は  
姉妹なんだぞ  
そんなことする  
はずもない……！



そんなこと  
する訳ないだろう！

提督は提督だ！



ふうむ…

この鎮守府でも屈指の  
練度を誇る戦艦長門は  
まだ生娘ときたか…

きっ…!?

そんな事、  
お前には関係ないだろ!



いいや、  
良い事を教えて貰った

お前より若輩者の  
この武蔵とて

その手の経験は  
数え切れんほどあるのに  
長門は…ククク

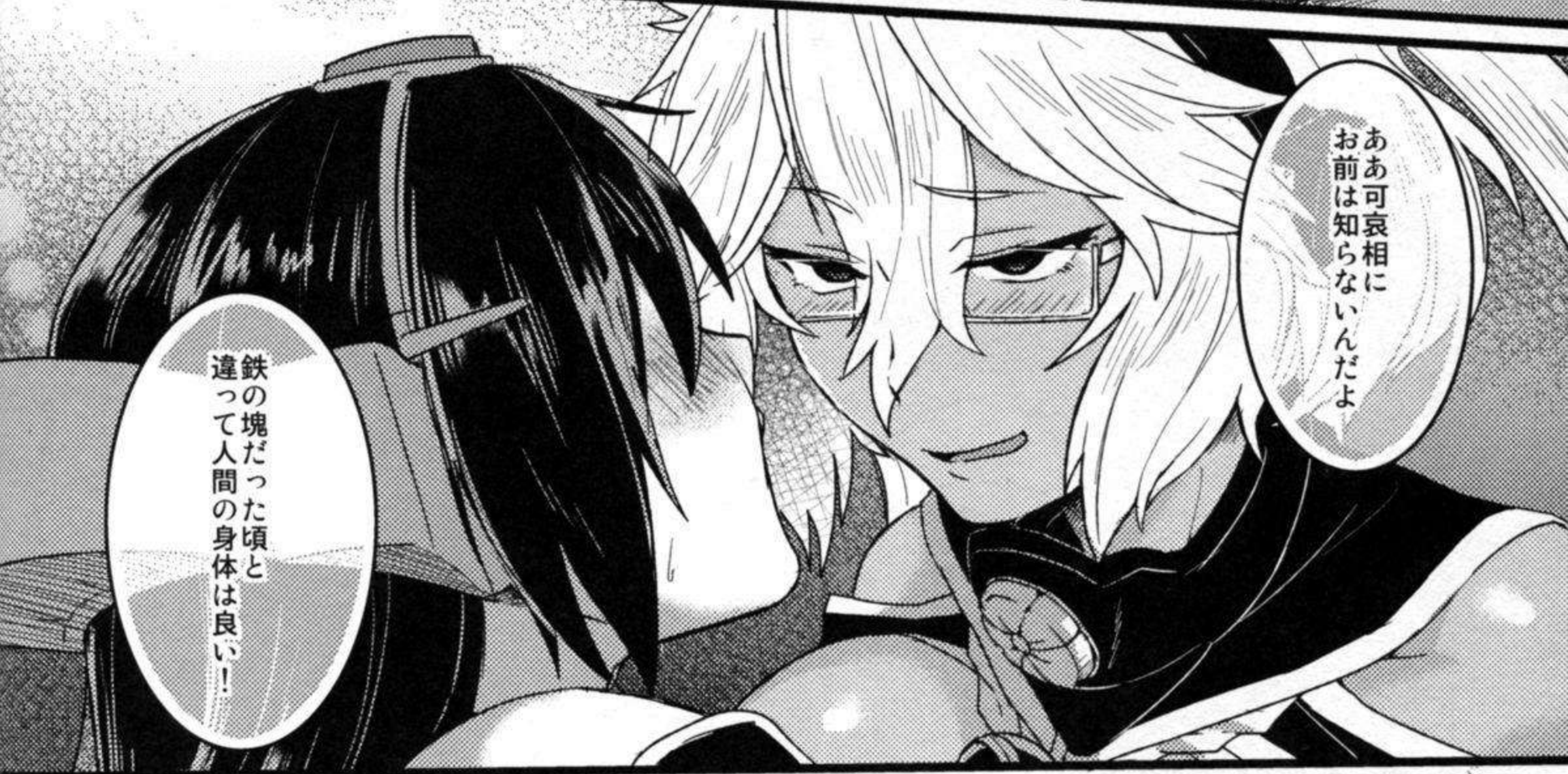
そっ…  
そんなもの…



フツ  
面白い

そつ  
そもそも……!

艦娘として生まれてきて  
そんなことをする  
必要がないだろ!



ああ哀相に  
お前は知らないんだよ

鉄の塊だった頃と  
違って人間の身体は良い!



そうだ長門

なんなら私が  
教えてやろうじゃないか

人の身体の  
快樂ってやつをな



いや

駄目だね



他をあたってくれ!

私には  
不要だっ!!



お前だったら同じく  
大型戦艦同士...

オッ

突っ込むものが  
無いのは心惜しいが



前なんかうっかり  
肋骨を折ってしまった!

クッ

人間の男ってやつは  
どうも軟弱でいけない

怪我を  
することも無くっ

…ッ!!

ぐっ…!?

思う存分  
楽しめて良いと思うぜ

さて…  
提督には悪いが

戦艦長門の味見を  
させて頂くとするか



お前だって  
案外と



嫌いなじゃ  
ないんだろ？

んっ…!!  
嫌に決まって…



フッ  
分かった

それじゃあーっ  
賭けをしよう



やめろ…!!

ちよっ

んん？

強がる割に  
やけに大人しいのは  
どうしてだろうな？



悪いが…  
力だつたら  
こっちの方が上なんでな

おっと



つまり長門は  
私に刃向つても  
意味がない

そこで長門のソレと  
私の力—

あとはお前の  
精神力と忍耐力が  
物を言うだろう

どちらが勝るか  
賭けをするんだ



ふう…いいだろう  
忍耐力ならこの長門、  
誰にも負けぬぞ

それじゃあ  
スタートだ

フツ  
全く楽しみだ!  
期待しているぞ?



ひあっ…!?

どこを  
舐めて…!

美味そうな  
匂いがするぞ

ふふ…



あーん

じゅわん

どくどく

スティン



ん?  
随分感度が良い  
みたいだな?

そんな所  
急に吸うやつが  
悪い…ッ

いつまで  
強気で居られるやら





折角良いもの  
持ってるんだし  
触ってやらないとなあ

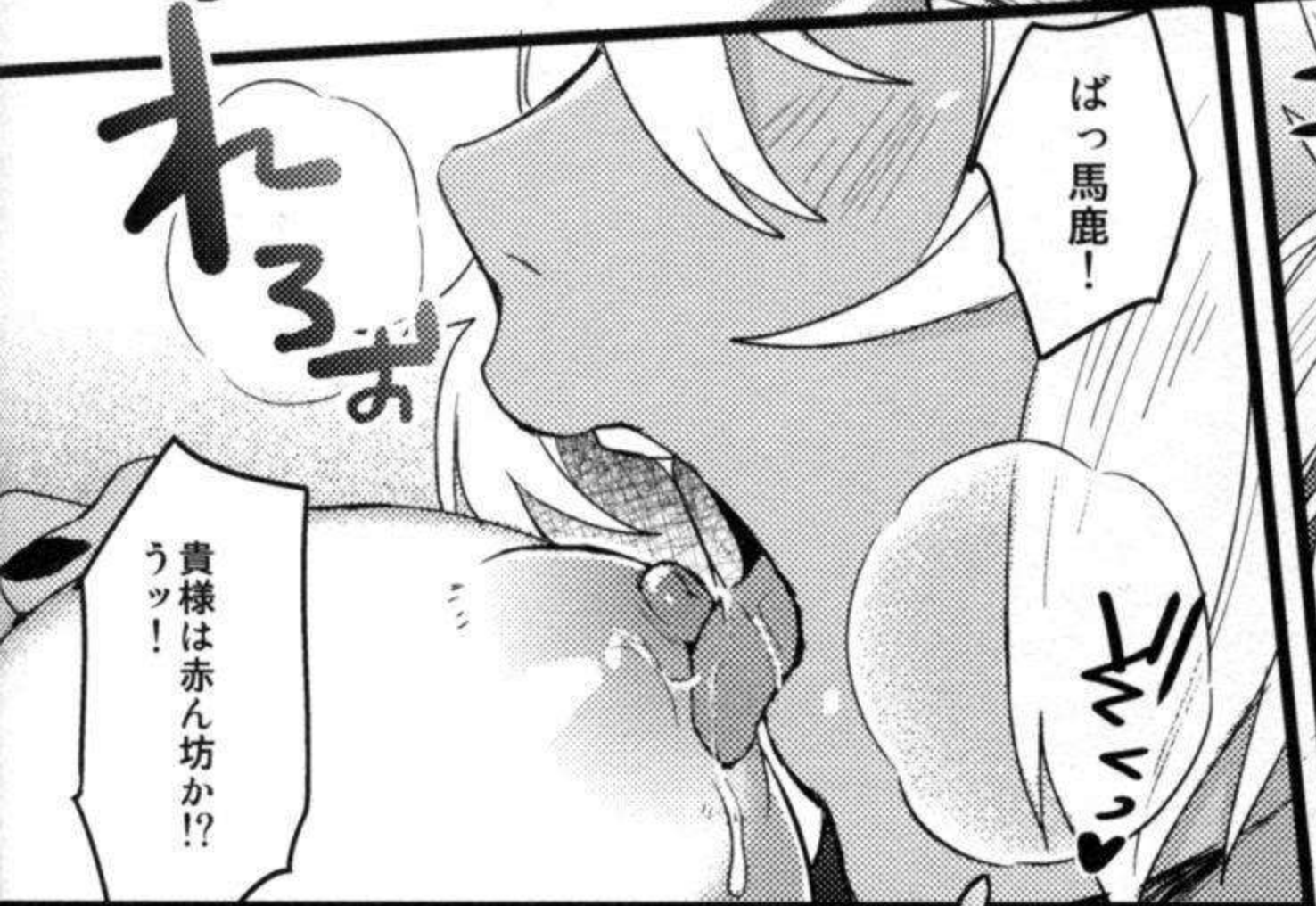
ぽん

ブル...

ふうん  
なんだ、意外と

柔らかい  
もんだない

あー



ばっ馬鹿!

おろおろ

貴様は赤ん坊か!?



なっ!?

武蔵っ  
何して...



んひッ!?

や、か、  
噛むなあ...ッ

ッ痛...!



どうだ？

どわ

どわ

どわ  
どわ

ここは  
性器でも  
何でもないぞ？

んっ

わあ

どわ  
どわ

ふふ  
おかしいなあ？  
どうしてだ？

キパン

キパン

戦艦長門は  
へそほしくを穿られて  
股を濡らすのか？

んっ…  
そ、そんな

そんな訳  
ないだろ…!!

ズ  
ズ



どうやら  
気のせいらしいな

そうか…

やたらと  
水音がやかましい  
気がするが

ん

み

ちゅ

アムッ

そこは



汚いからっ

触ったら、

だめだっ!

クク、  
拒むのは勝手だが  
ここで止めても良いのか?



んんん

んんん



ググと同時に  
グリグリするなあっ

んあっダメだっ  
むずむずするっ

あっあ

は、はやく止め

グググ



懇願するなら  
今すぐ止めてやるが

ニヤリ

はあ

その暁には  
お前が金輪際出撃できん  
くらい犯し倒してやろう

そこでこの賭けは  
私の勝ちだぞ

はー

さあ、  
答えは一つだろ



んっ!!

大人しくマンコを  
かき回されて

んっ

フフ、  
いい眺めだなあ

あの長門の  
こんな顔が  
見られるなんてな

気持ちよくなった  
方が良いもんな?

痛っ

んっ

んっ

んっ

んっ

もう、もう  
本当に、何かっ



何かくる…ッ  
もうやめ…っ！

はんっ

そこで止める  
馬鹿がどこにいるっ？



やっ！

あっ！



あっああっ  
もうらめっ…

あう…  
ああ…あ…

あーっ！

あーっ！

あーっ！

あーっ！

あーっ！

あーっ！

あっはっは!  
呆気ないなあ!

はっ

やはり  
睨んだ通り、

はっ

はっ

貴様はこの武蔵を  
存分に昂らせて

…な…  
何が言いたい

ヒクッ  
ヒクッ

長門、お前が  
申し分ないほどの  
ド変態だったってことだ

恥辱を受ければ  
受ける程に、身体ばかりが  
順応していくだろうか?

ハッ  
ハッ

それに心が  
追いつかない様が

突然襲われた上に  
こんな目に遭うなんて  
本当に哀れだ

ありありと  
分かるぞ

私がこの機会を  
ずっと伺っていた事に  
気づかないお前が悪いんだぜ

さて、そろそろ  
私も愉しませて  
もらおうかな

長門はそこで  
大人しく  
してたら良い

後はこの武蔵が  
好きにさせて貰う♡









不思議とっ  
ん、普段よりっ

気持ちいいようなっ  
気がするぞ…っ♡

んっ

んっ

んっ



ここで果てるには  
勿体ない…っ

折角だし  
長門も気持ちよく  
ならないとなあ？

は…？

ほっ！！

せー

こ、これ以上  
何をするつもりだ!?

はっ

はっ

はっ



何、って  
今更聞くのか？

アッ

ここまで来たら  
そりゃあ決まってるさ

アッ

グッ

グッ



やっ、そんな所  
こすり付けるなっ

あははっ

面白い事  
言うなあ！

あ

気持ち良ければ  
長門だつてっ

あ

女同士は、これ  
が  
良いんだぞ？

あ

うわ

あ

動いても  
いいんだぞ？



快樂に流されるのも  
大いに結構だが、  
まだ昼間なんでな

他の連中にバレたら  
流石にマズいだろう？

…っそれにしたって  
やけに大人しい  
じゃないか…っ

もっと…っ  
抵抗されるかと  
思ったぜ

やはりマゾヒストの  
ド変態かあるいは…



アハハ?

…まあ

はーっ

こっちとしては  
鬱憤が晴らせるうえっ

はーっ

気持ちいい…しっ  
良い気分だかな  
…っそ、

それなら…  
良いんだ…っ



方法は、どうあれ…っ  
武蔵の気分が、  
…晴れるのなら

…古株の役目と思って  
う…受け入れるさ…!!



…

なるほど、  
そういう事か…

…お前は随分と  
御人好しなんだな

チツ!!  
分かったよ!

…それじゃあ  
お言葉に甘えて  
最後までいくぞツ!!

私は所詮、  
癩癩持ちの糞餓鬼さ

グ  
グ  
グ

ッ!?

そらッ!  
長門、腰が引けてるぞッ

あッ

ん、ひやッ  
激し、すぎだあッ!

あッ

お前のと擦れて  
熱いっからあ…っ!

っはあー♥良いぞお♥  
熱いのがっ良いんだっ♥

あッ

あッ

あッ

ん、あッ♥  
そうだっエライぞ♥

長門もっ

一緒に気持ちよく  
なってしまえばいいッ!!

今までヨガってたのが  
演技じゃないのは  
お見通しだからなッ!

んひん

あッ

あッ

あッ

あッ



あ  
は、ああっ  
もうダメだあっ

うっ  
きたきたきたあっ

あっへっ  
イキネ…っ

あっ

うっ



カッ  
カッ

カッ  
カッ

…ん?

…おい、武蔵

はあ…  
はあ…

—はあ…はあ…





…まあ

溜めこむなよ

…あんまり

……

努力するよ



その時はまた、  
相手してくれるんだろ？

じゃあな、  
色々ごちそうさん

あっはっは！  
流石に心強い！

…はあ!?



ツッ!!

ツッ

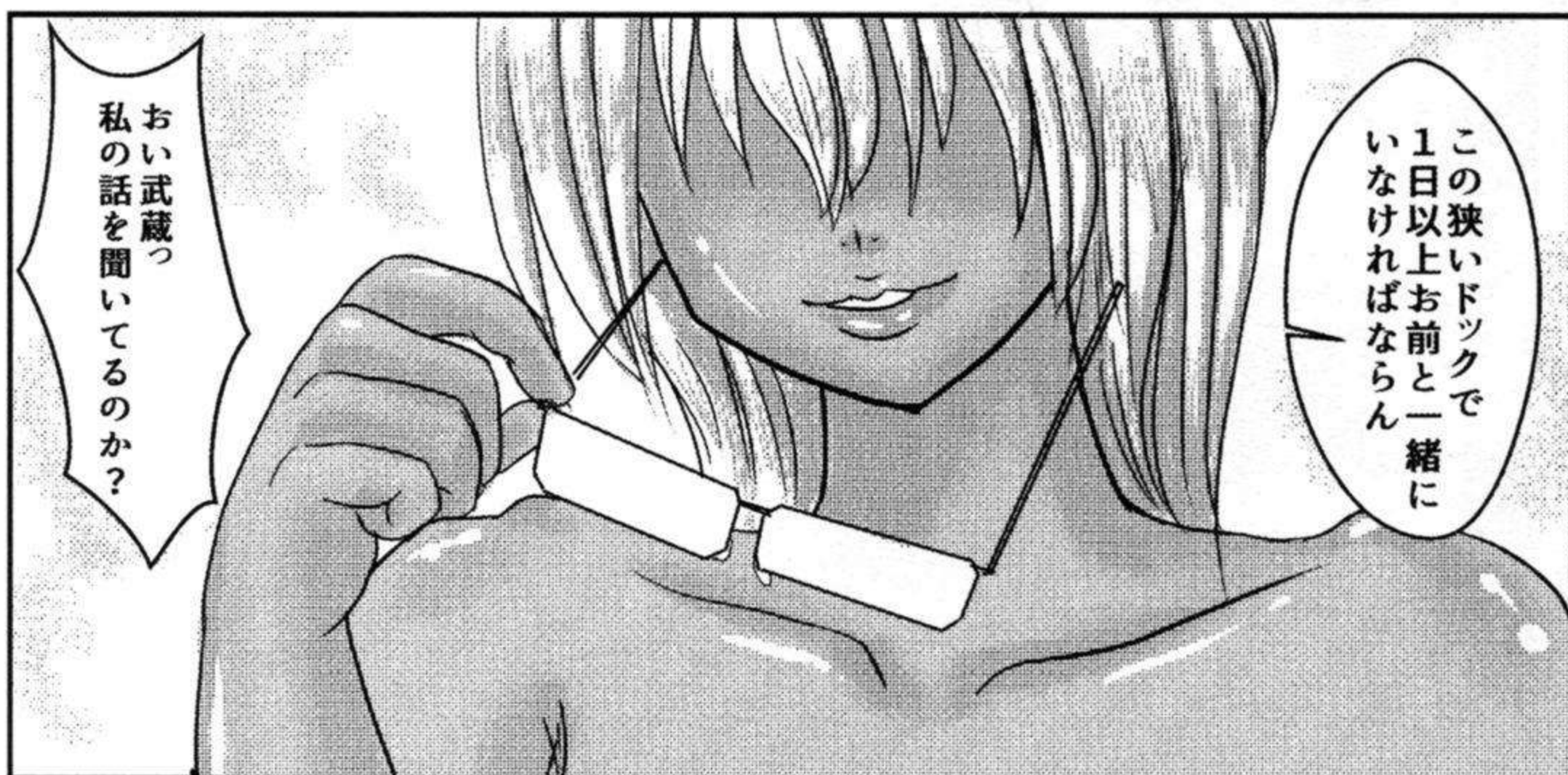


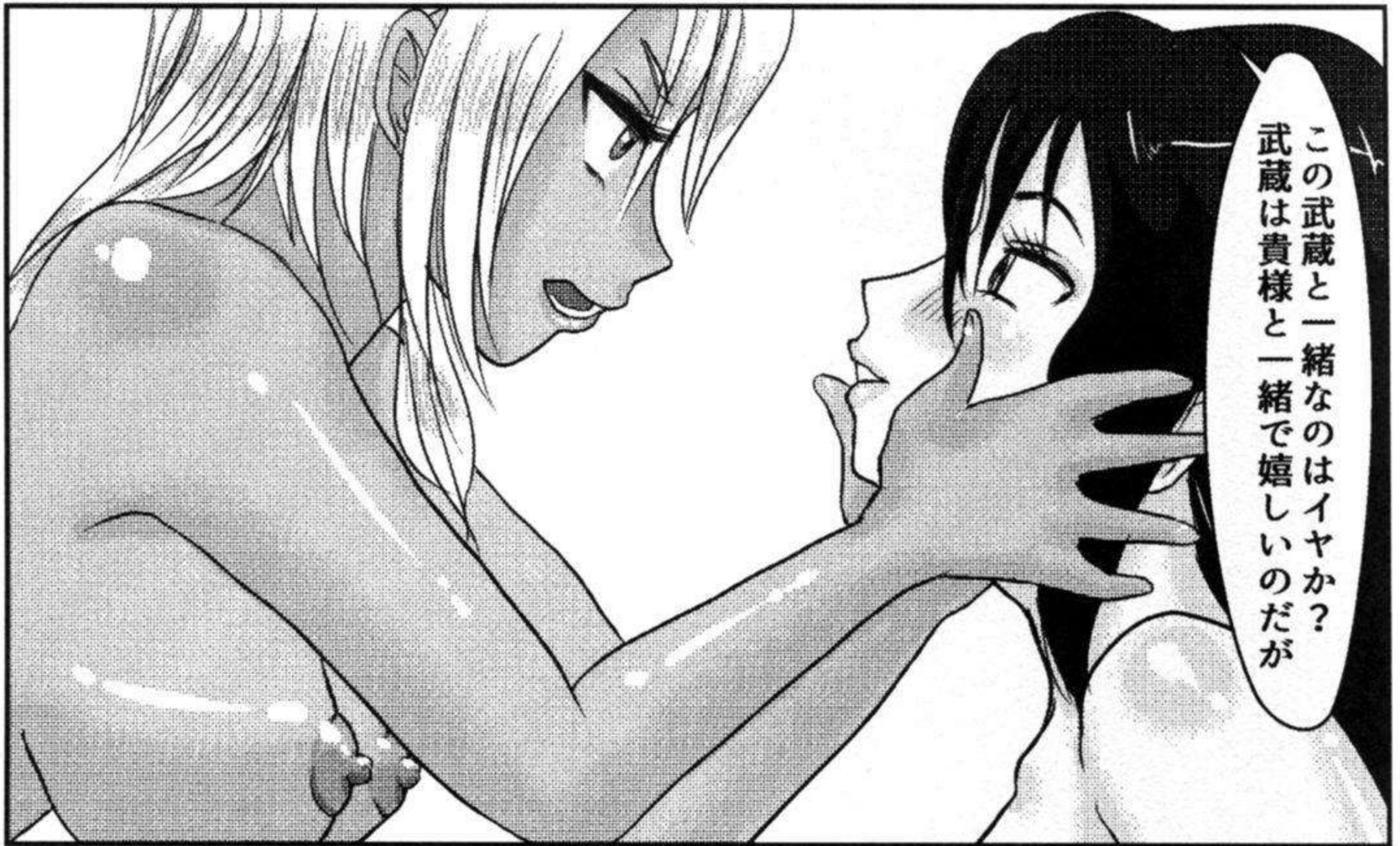
カミヤマトウキ













エーデルシュタイン







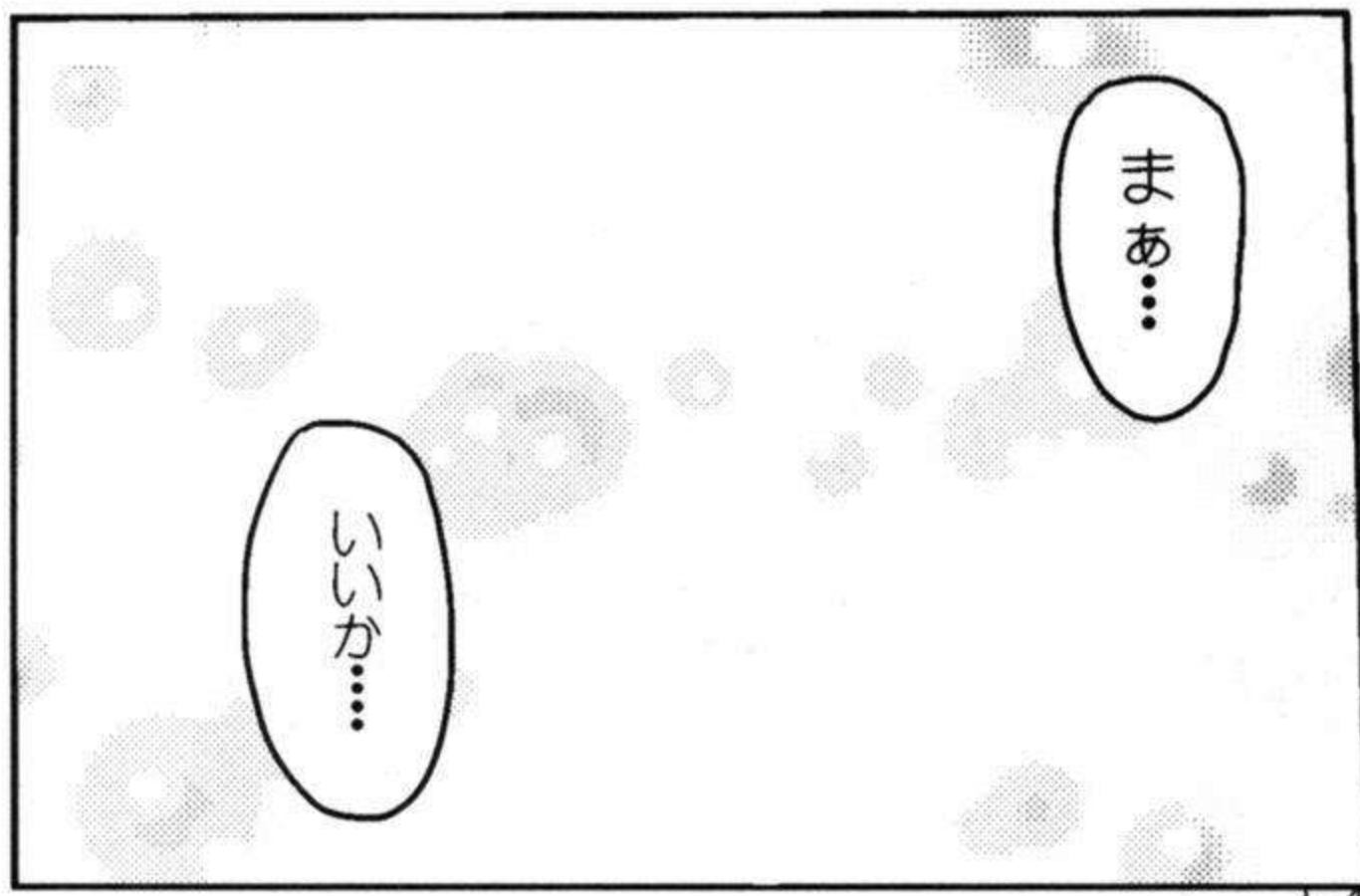


はやく落ち着く場所を  
見つけてやらないといけないのは  
わかっているんだが  
うまくいかなくてな...



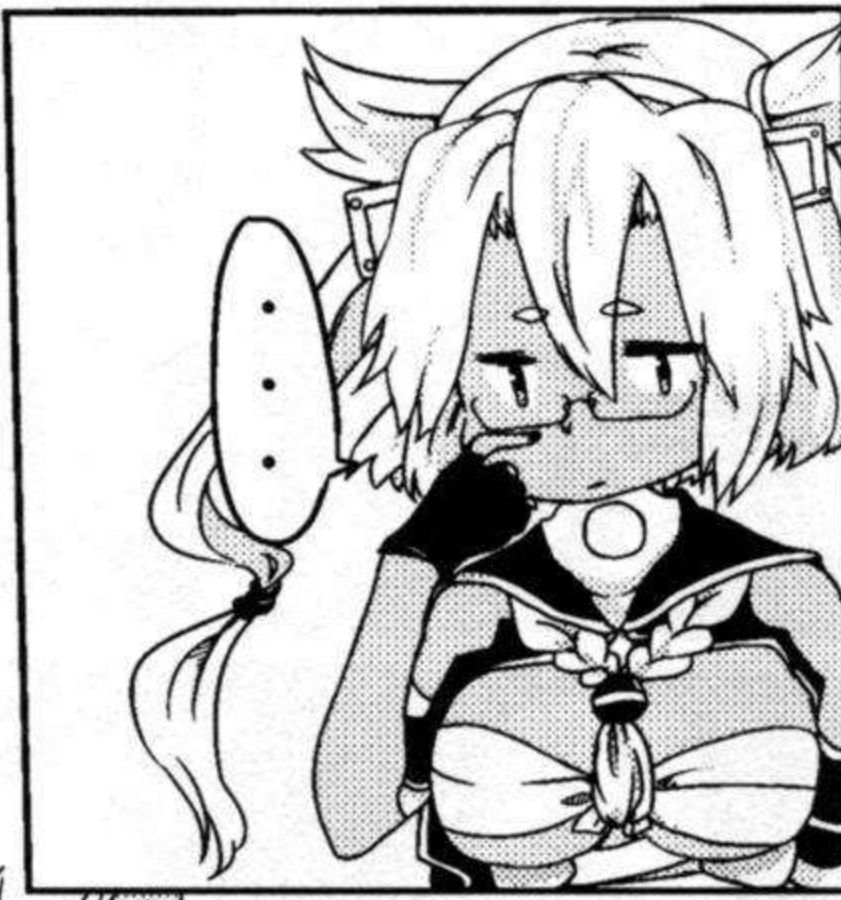
張り紙で募集も  
かけてみたんだが  
どうも効果んだが  
薄いみたいなんだ

あれはお前の仕業か  
駆逐たちが  
震え上がったぞ...



まあ...

いいか...



...



私が  
こいつを  
引き受けよう

よし

!



ほ本当かー？  
いいのー？

まあ  
乗りかかった  
船だしな

私も艦だかな



ついで名前だ  
無いんでないわけでは  
無いんだろ？

……ん？

「ん？」



武蔵……!!  
お前は  
恩人だ!

大表波が……

で  
「の毛玉の  
名前は何か？」

かじっ



長門  
お前まさか

口に出すのも  
憚られるも  
ような名前を

猫……

Censored

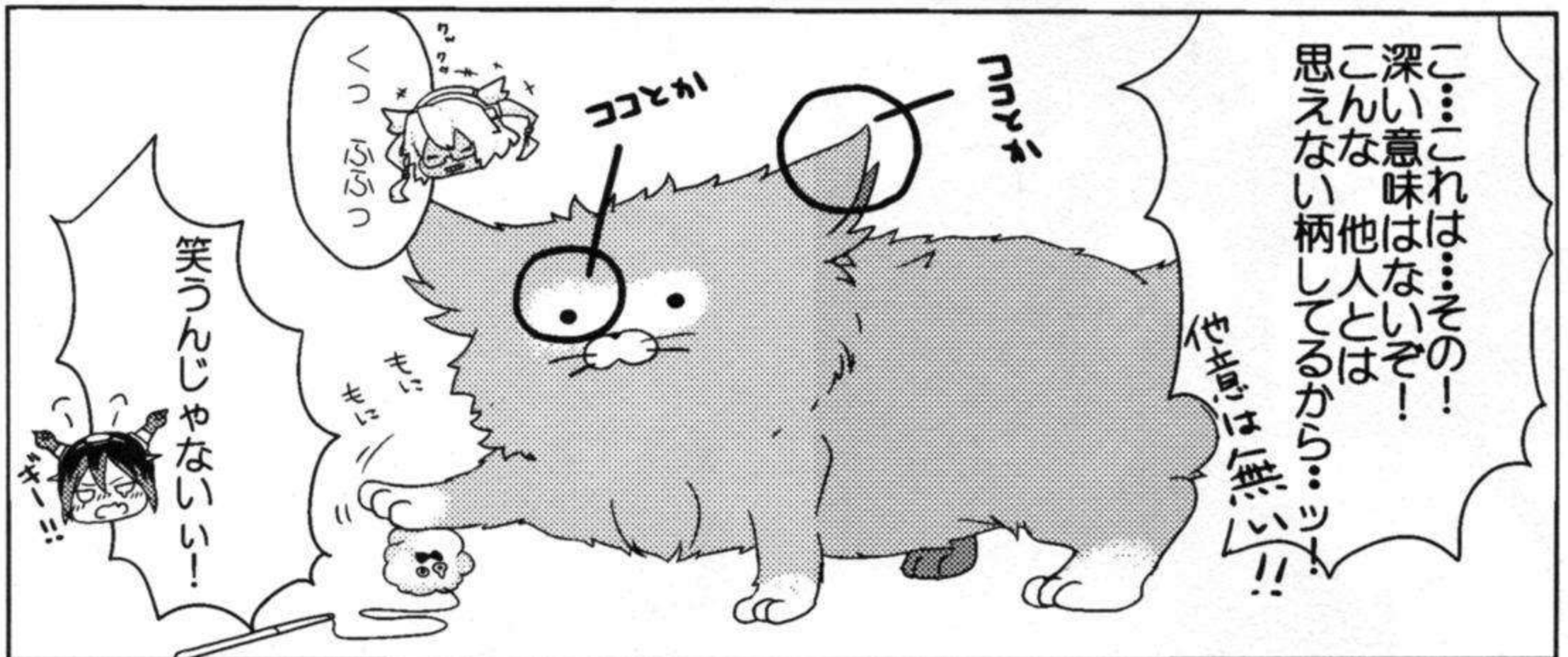
Censored



それ……

もし……

そこだか……







illust:諒.B





illust:のぎぐちひろ



機長戦闘記録

開覧

武蔵 ← 長門

共有化

砲  91  
艦  32  
機

第7整備F-31

備品

illust:瓜生



む、武蔵！  
何をっ……！！

私の所有物に  
手を出すことの  
何がいけないんだ？

さあ、今日もいい声で啼いで  
私を楽しませてくれ♡

illust:神月紫苑

illust:camo



# 艦に心あり

あつや

「デハ、私が。陸奥、しつかりするネ。」

予定は無いから。」

「ええ・・ありがと。」

「いや、提督、お話がある。少しいいか？」

金剛が肩を貸し、更に那智がもう一方の肩を支えて二人がかりで陸奥を連れていく。

長門は、務めて冷静でいるように見えた・・表面上は、強く握られた拳が微かに震えているのが、その内面を語

「提督、艦隊が帰投したようだぞ。」

武蔵がちらりと長門を見遣る。彼女は、俯いて唇を噛

「おお、そうか。じゃ、出迎えに行こうか。」

み、暫くそこから動かずにいた。

「私は少し外してしよう。」

本日の秘書艦の武蔵が通信室から艦隊帰投の連絡を受け取り、二人は埠頭に向かった。

執務室で、長門は務めて冷静に、出撃での経緯を報告

度、陸奥をドックまで運んでいった金剛が戻ってきた処

二人が埠頭に辿り着くと、既にこの日出撃した艦隊が

している・・よっに見えた。彼女曰く、大破は陸奥のみ。

だった。

陸に上がっていた。

他は中破二隻、小破一隻。

「Hey, 武蔵。陸奥はなんとかドックに入れたヨ。時

旗艦は長門。その長門の肩には二番艦の陸奥が姉に支えられて立つのもやっつ、という有様だった。

ただ、陸奥の大破は、旗艦である長門を庇った為、という。その報告は、途中での艦隊からの報告とも一致し

し。」

「皆、お疲れ様だな。まずは損害が酷いものから順に入

っていた。

「そうか、ご苦労だったな。後で提督に伝えておこう。

渠してくれ。長門、君は報告に残ってくれるか。」

今は・・長門が話があるらしくてな。」

「了解した・・誰か、陸奥をドックに連れて行ってくれ。」

「ご苦労だった。君もゆっくり休んでくれ。暫く出撃の

「そうデスカ。余程陸奥の大破が堪えたみたいデスネ。

どうしても以前の記憶と重なるのデシヨウ・・」

「そうみたいだな。あいつは、自分よりも他人が傷付くのを嫌がる。それが自分を庇った所為とあつては尚更な。」

「あの子は数多くの同胞を見送ってきましたカラネ。私もアナタもあの子の目の前で沈んでいきマシタ。艦だった頃にも心はあつたのデス。益して、今は人の姿と心を持ってイマス。何故、私達はこの姿と心を持っているのデシヨウネ・・心など無ければ、苦しまずに済んだのにネ。」

「心が無ければ、一層悲惨だからかもしれんな。」

武蔵の言葉に、思わず金剛は真顔で彼女を見詰めた。武蔵の表情は読み取れなかったが、その瞳は静かな色を湛えているように・・見えた。

「・・武蔵、アナタはスサノオとなれますか？」

「何だと？」

「素戔嗚命。日本の神々の中でも恐らく最強の暴れん坊。意外ではないデシヨ？私達が艦だった頃、艦内神社というモノがあつた筈デス。アナタのそれは、武蔵国二宮である氷川神社から勧請した武蔵神社。その祭神は素戔嗚尊デス。史上最強の戦艦は、実はアナタという話も聞きます。それなら、長門を護るに相応しいネ。」

「成程・・随分回りくどい言い方をしたものだ。いいのか？それは、私に長門を預けるという事ではないのか？」

「勿論、私も出来る限りあの子を護りマス。デモ、盾となつても陸奥の様にあの子を悲しませるだけデシヨウ・・私の装甲では、あの子を護りきる事が出来ない。でも、アナタなら大丈夫デシヨウ？最強の戦艦サン。」

「えらく見込まれたものだが、いいだろう。元よりそのつもりだ。それがあいつの心をも護る事になる。」

「期待してマスヨ、大和型の二番艦サン。」

武蔵の腕を軽く叩いて金剛はその場を去って行った。武蔵は何気なく執務室の扉に目を向ける。扉はまだ開かない。

「で、長門、話とは？・・まあ、大方の予想は付くが。執務室では、提督の机の前に長門が立っていた。どことなく、提督はその姿に違和感を覚える。いつも凛とした立ち居振る舞いで、堂々としている彼女が、何だか頼りなげに見えたのだ。」

「それなら話は早い・・次の出撃の時には、私を旗艦から外してほしい。」

「ふむ・・まあ、確かにずっと君が旗艦だったからな。偶には交代して他の娘に旗艦の経験を積ませるのも手だ。」

が、君には他に理由がありそうだな。」

「ああ……いや、これは私の個人的な理由だ。すまん、気にしないでくれ。」

「今回の陸奥の大破は君を庇った為との報告があったが、僚艦が旗艦を庇う行為は時に見られるものだ。気にするな。」

長門は、その時の事を思い出していた。敵艦隊は五隻まで沈め、だが、姫級が残っていた。味方艦からの砲撃を幾度受けても中々傷一つ負わせられない。

その時、姫の主砲が火を噴いた……だが、自分に傷は無かった。目の前に陸奥が立ちはだかり、身を挺して長門を庇ったのだ。

「陸奥……！」

陸奥の主砲は3基沈黙し、装甲を破って生身の部分にまで損傷が及んでいた。

「しっかりとしろ！何故庇った……！」

「旗艦を庇うのは僚艦の当然の行為だわ。それより、今ならあいつを沈められるわ……早く、止めを……」

長門は陸奥を金剛に任せ、姫に主砲を斉射して遂に沈めた。

「陸奥……大丈夫か……姫は沈めたぞ。」

「そう、流石姉さんだわ……そんな顔しないで。」

陸奥がにこりと笑って長門の頬に手を添える。

「心配しないで、私は貴女を残して沈んだりしないから。」

もう、あの時の様に、貴女を一人残したりなんかしないわ。だって、陸奥は長門の為に居るのだから。」

だから……そんな、泣きそうな顔しないで。

そこで陸奥は意識を失い、艦隊はすぐさま帰投した。

「私は……また、あの子を目の前で失う処だった。もう、誰かを見送るのは……堪えられそうもない。これか

ら先、絶対に沈まないという保障は無い。もう、一人残

されるのは……」

「長門」  
提督は思わず机から立ち上がり、彼女の前に立つ。微かに俯いた先に見える唇は震え、握り締めた両の拳は微かに震えているようだった。

提督はそつと腕を伸ばし、彼女を抱き締めた。

長門は驚いて一瞬身を固くするが、すぐに体の力を抜いた。

いた。

提督の大きな掌が自分の髪を優しく撫でている。自分を抱き込む腕と広い胸は温かく、長門はそつとその胸に頭を預けた。

その時、不意に執務室の扉が開かれた。

「提督、長門、陸奥を入渠させてきたぞ……お邪魔だったか。」

武蔵の突然の登場に驚いて、長門は顔を真っ赤にしながら慌てて提督から離れる。

「あ、ああ、武蔵、ご苦労だった。じゃ、私はこれで。」

提督 さっきの話は忘れてくれ・・・」

言うが早いか、長門はそそくさと武蔵の脇を擦り抜けて執務室を出た。

「すまん、折角良い雰囲気だったのに水を差した様だ。」

「いや、そんな事は・・・」

「そうか？その割に露骨に残念そうな顔をしているが。」  
言われて、提督は微かに苦笑を浮かべる。

確かに、武蔵が入ってこなければ自分は長門にもっと先を求めていたかも知れない。先程まで手にしていた彼女の肌の温もり、微かに香る、清々しい様な、甘酸っぱ

い様な、芳しい薫りが、まだこの手の中に残っているようだ。

「貴方も長門に惚れているのか。」

「と言う事は君もか。」

「まあな、建造されて初めてあいつを目にした時には女神かと思ったよ。今もそう思っているがな。」

「成程、だとしたら戦女神という処かな。だが、今回は

かりは彼女も参ってしまった様だ。先の大戦での記憶があるから、余計に居た堪れないだろう。次は自分を艦から外してくれと言ってきたよ。」

「成程。だが、今度はその長門自身が旗艦を庇うつもり

だろう。そして、その旗艦も同じ苦しみを味わう事になる・・・救いのない繰り返しだ。我々艦娘は人の姿と心

までも持っている、厄介な事にな。」

「・・・艦に心あり 余の乗艦を喜ばば、余は彼女の健

在と今日迄の奮闘を謝するものなり、と嘗て先の大戦で

第一戦隊司令官であった宇垣中將は、戦歴録でそう記し

たそうだよ。彼も、感じていたんだな。物言わぬ鋼鉄の

城であっても、艦にも心があると。その、心ある君達に

往けと命じるのは苦しい事だ。」

「だが、その心は時に力となる。長門がああ光を二度も浴びて、尚四日間も沈まずに踏み止まったのは、英霊が

支えているからだと言った人がいたな。人の心とは、想いとは思わぬ力を生み出す時がある。成程、苦しい時に

は心さえ無ければ、と思う時がある。だが、紛れもなく

人は、そして兵器である私達ですら、正しくその心が支えとなり、力となるのだ。」

「そうか。なら、君のその力は何の為に？」

「無論、大切なものを達を護る為だ。この国を、海をそして大切な仲間達を護る為に。」



そう、力強く言い放った武蔵の瞳が、束の間揺れた。

「・・・なあ、提督。あいつとケツコンしてもいいんだ

ぞ。そして、あいつを護ってやってくれ。この戦いが終わった後にも護ってやってほしい。」

思わず仰ぎ見た武蔵の瞳は、どこか遠くを見ているように思えた。

「君が護りたいんじゃないのか？」

「勿論、この武蔵在る限り、戦場であいつを護る自信はある。だが、私は建造された身だ。この先どうなるかは分からない。加えて、あいつは元々は人の身だ。戦いが終わり、艦娘でなくなったその時に、あいつを護れるのは貴方しかないと思ったんだ。」

「それは、勿論そうするつもりだ。だが、今はまだ先の事は分からない。何より、彼女の意思の方が大切だ。」

「ああ、そうだな。当人を抜きにしての論議など滑稽な

だけだ。・・・すまなかつたな、この話はここまでにしよう。」

それきり武蔵は口を閉ざし、提督も言及する事なく、

この日の執務は終わった。

その日の夜、武蔵は酒を持参して長門の部屋を訪れた。

「なんだ、武蔵か。私に付き合えと言っのか？」

「ああ。一人は寂しいかと思つてな。」

「そんな事は無いが・・・まあいい。今夜は付き合つてやろう。」

長門は武蔵を迎え入れ、二人で酒を酌み交わした。

「うん、これは良い酒だ。これなら幾らでもいけるな。」

「だろう、取つて置きなんだ。お前と飲みたくてな。」

武蔵が笑つて長門の杯に酒を注ぐ。

もしかしてこれは武蔵の気遣いなのだろうか、と考え

る。そんなに自分は傍目からも分かる程に気落ちして見えただろうか。提督に慰められている所まで見られてしまった事だしな・・・

「なあ、長門。」

「うん？」

「次の旗艦、私がつてやってもいいぞ。その方がお前も安心するだろう？」

「提督から聞いたのか・・・確かに、お前なら頑丈だし・・・」

「そう、私は頑丈だ。だから、沈まん。」

武蔵が長門の手を取り、その目を見詰める。

「私は大和型だ。この装甲は同じ大和型にしか破れん。

だから、お前の目前で沈む事などない。お前を悲しませる事もない・・・」

「お前は・・・」

長門の脳裏に、嘗ての戦での光景が浮かび上がる。

自分の目の前で、巨大な戦艦が四方から無数の攻撃を受け、遂に力尽きて沈んでいく様が・・・

「だが、お前は一度沈んだじゃないか。私の目の前で。」

「ああ・・・そうだったな。」

あの時の事ははっきりと覚えている。敵の砲撃を次々に受け、徐々に船体が傾いていく中、自分を見詰める長門の姿を捉えた。

目に一杯に涙を溜め、それでも唇を噛み締め、目を逸らす事なく自分の最期を見届けた。出来ればこの先も共に在りたかったが、もう、それも叶いそうにない。それが悔しかった。

だが、今は違う。そう、あの時とは状況が違う。自分はまだもう一方的にやられはしない。自分の主砲は、自分の

存在は、大切なものを達を護る為に在る。

その為に力を惜しみはしない。何よりも、共に戦うもの達がいる。長門が居る。それだけで、戦う為の力は限りなく湧いてくる。

「だが、お前がいるだろうか？私はお前を誰よりも信頼している。そのお前が傍に居るんだ。お前とて、むざむざと仲間を沈ませはしないだろうか？」

「ああ・・・そうだな、その通りだ。なら、私がお前を護ってやる。この長門の矜持に掛けて、お前を沈ませはしない。」

揺れる瞳で、それでも自分をしっかりと自分を見据える長門の体を武蔵は腕の中に抱き込んだ。そのまま体を倒しても、長門は抗わなかった。

薄闇の中、ぼんやりと浮かび上がる様な眩しく白い肌の至る処に武蔵は手を這わし、唇を押し付け、舐め上げ

た。その度に自分が組み敷いた体がぴくり、と身動き、

唇から微かな吐息が漏れる。歓喜に浸りながらも武蔵は更に愛撫の手を強め、そこで、己の腰の違和感に気付いた。

下肢の狭間に息衝くものがある。武蔵は投げ出された長門の手を取り、それに触れさせた。

「なっ・・・?!」

流石に長門も目を見開いて体を起こす。常人よりも夜目が効くその瞳に、武蔵の肢体を捉え・・・そこで、在り得べからざるものを見出した。

「お、お前・・・、なんでそんなモノが付いてるんだ?!」  
長門が驚愕するのも無理はない。  
武蔵の下肢の狭間には、本来女性の身にはある筈のな

いもの・・・男性器が存在を主張するかのようにな上向いていたのだ。

「ああ、私も今気付いた。昨夜までは無かったんだがな・・・」

「なんでそんなに落ち着いているんだ!」

「別にあっても困る事はないと思ってな。私は建造で出

来た身だ。その分、精神的なものが作用するのかもな。

何より、お前を抱けるしな。」

そこで、長門は自分の手が未だ武蔵のそれに触れているのに気付いて赤面した。

「なあ、いいか?お前とこれで繋がりたい・・・お前に、

確かな証を刻めるんだ。心だけじゃ足りない。体までも

繋がりたいんだ。」

武蔵が長門を抱き寄せ、その耳元に優しく囁く。長門

は頬を染めながらも、確かに頷いた。この腕の中は温か

くて、安心出来る。こんなにも自分を求めてくる、この

超弩級戦艦の想いに応えたい、と思った。

武蔵が強いだけでなく、こんなにも優しい事も、自分は知っているから。

「好きにするといい・・・私の初めてを、お前になら捧げてもいい。」

「長門・・・光栄な事だな。」

武蔵は笑みを浮かべ、更に長門への愛撫を強めていっ

た。頬に、唇に、胸に、脚に、そしてこれから自分を受

け入れてくれる、秘めた処に。触れる度に蜜を溢れさせ

る其処に己を宛がい、ゆっくりと動くと、其処はきつい

ながらも徐々にそれを受け入れていった。更に腰を進め、

長門の処女を奪う。

長門は未知の痛みに引き攣りながらも、健気なまでに

武蔵を柔らかく受け入れていった。

それからは夢中だった。幾度、互いに絶頂を極め、長

門の内に精を吐き出したか知れない。

「ん・・・?」

窓の外から耳に届く鳥の囀りと、瞼の裏にまで届く陽の光の眩しきで武蔵は目覚めた。

ふと、腕にかかる重みと、体に寄り添う柔らかな肌の

感触と温もりに目を向けると、そこには昨夜を共にした

愛しい女の眩しい肢体。

昨夜の情交に疲れ果てた長門は瞼を閉じたまま、すう

すうと微かな寝息を立てていた。無理もない。武蔵は微

かな笑みを漏らす。

あれ程に他人の肌に溺れるとは思わなかった。それこ

そ夢中で長門の肌を貪った。

今、自分の腕の中に至福がある。

誰よりも愛おしい女。初めて彼女を目にした時の衝撃は慕情となり、恋情、激情と日々形を変えて深まってゆく。

これからも、この戦いある限り、共に在ろう。

護るばかりではない。護られるばかりでもない。

共に補い、遥かな勝利と栄光の高みを目指す。長門となら、それが出来る。

だが、取り敢えず今は。

ひとときの安らかな平穏と、今一度の微睡を。



長門型一番艦  
長門：

鎮守府最大最強の戦艦であり、  
第一艦隊旗艦

ビッグセブんと名高い  
その身体：  
味あわせて貰う：

何だ  
武蔵

何か用か？



なっ

何を…!?

はっ

はっ

これから  
お前を  
犯すのさ



なっ!?

何をだと…



不服なら  
力尽くで  
どかせばいい

ギリ  
セブンの  
力と  
やらでな!

どうした  
全く力を感じんぞ

うっ!?

あ  
ち  
か



やめてくれ...

や、やめろ  
武蔵...



ハハハ  
ではこのまま  
頂くぞ!



あっあああ

ぐあっ

す

カブくと  
言った  
だろう!

ビク

ビク  
ビク

あああ  
あああ

どうだ私の  
主砲の味は…



アッ

すぢゅ

すぐに私の太さに  
慣らしてやるぞ…

ぢゅ

うっ  
動くな…!





どうだ長門...  
今しがたまで貴様の中に  
入ってたものだぞ

う、動か...

くじく...

ほうれ



うあっ  
あああ  
あああ

ちんちん



このまま  
中に出すぞ

なっ??

お前も  
お待ちかねだろう

何  
言ってる!?

お望み通り  
抜いてやるさ  
貴様でな!

びん  
びん  
今すぐ  
抜け!!

びん  
びん

やめろっ!  
うあああ

やめっ

お前も  
満足して  
いまい?

まだまだ  
終わらんぞ

貴様...あとで  
覚えておけよ!







なら私を庇うなどといらん真似はするな



私は護る時は全力で護る

例えそれが誰であつてもだ



なら貴様も付け入る隙など見せんことだな

……



腹を立てていたのも事実だが



…聞くと思うか？私が

話が済んだらとつとと出て行け

…もういいだろう

最初から  
そのつもりで  
来たというのに

貴様っ  
楽しんでないか!?

そりゃ楽しいさ

弱ったおまえは  
なかなかお目には  
かかれないからな

大事な大事な  
長門型一番艦を  
傷つけてしまった  
からなあ

その責任は  
この武蔵に  
あるわけだし?

私自ら修復の  
手伝いをして  
やるうというのだ

全身浸かれば時間も  
早まるんじゃないか?

12 40 36



おは

来たらっ

誰かつ



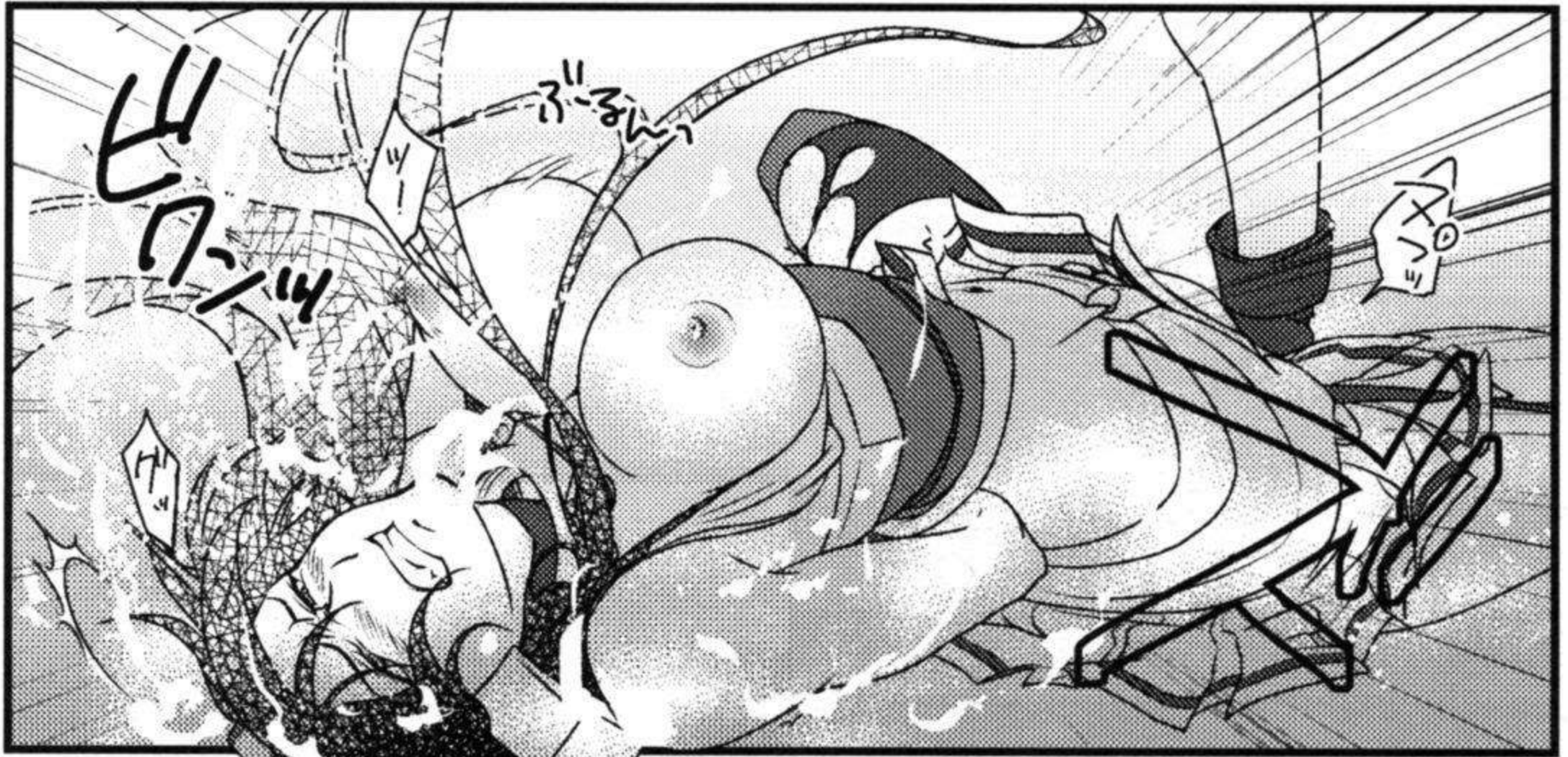
心配するな

今は『清掃中』だ

大きな声を出せば  
多少は聞こえるかも  
しれんが



…それ以前に  
声自体出せないか









冗談を言う

まだ果ててすら  
いないだろ？



も…っ  
いいだろ…っ



私も少しは  
愉しみたいしな♡

がんばれ♡



んんん

むっ  
こら逃げるな

ほら  
舌を出せ

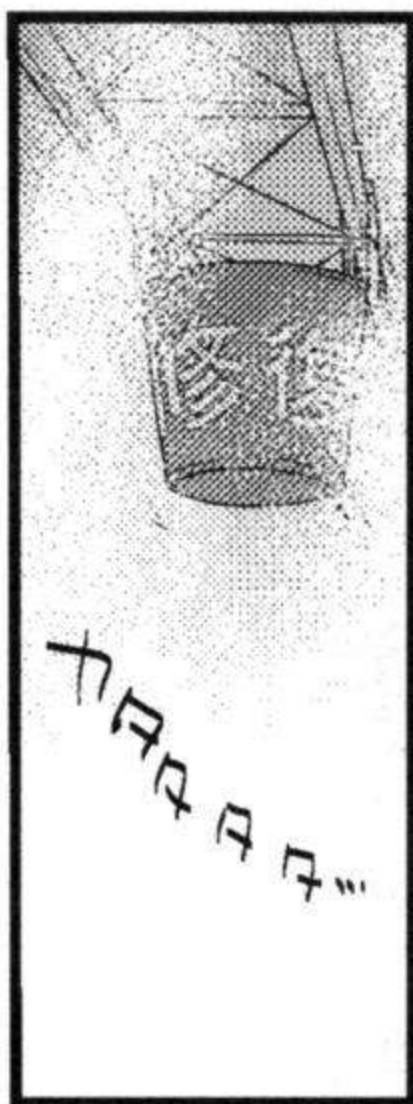
そう…んっ  
いいぞ…っ♡

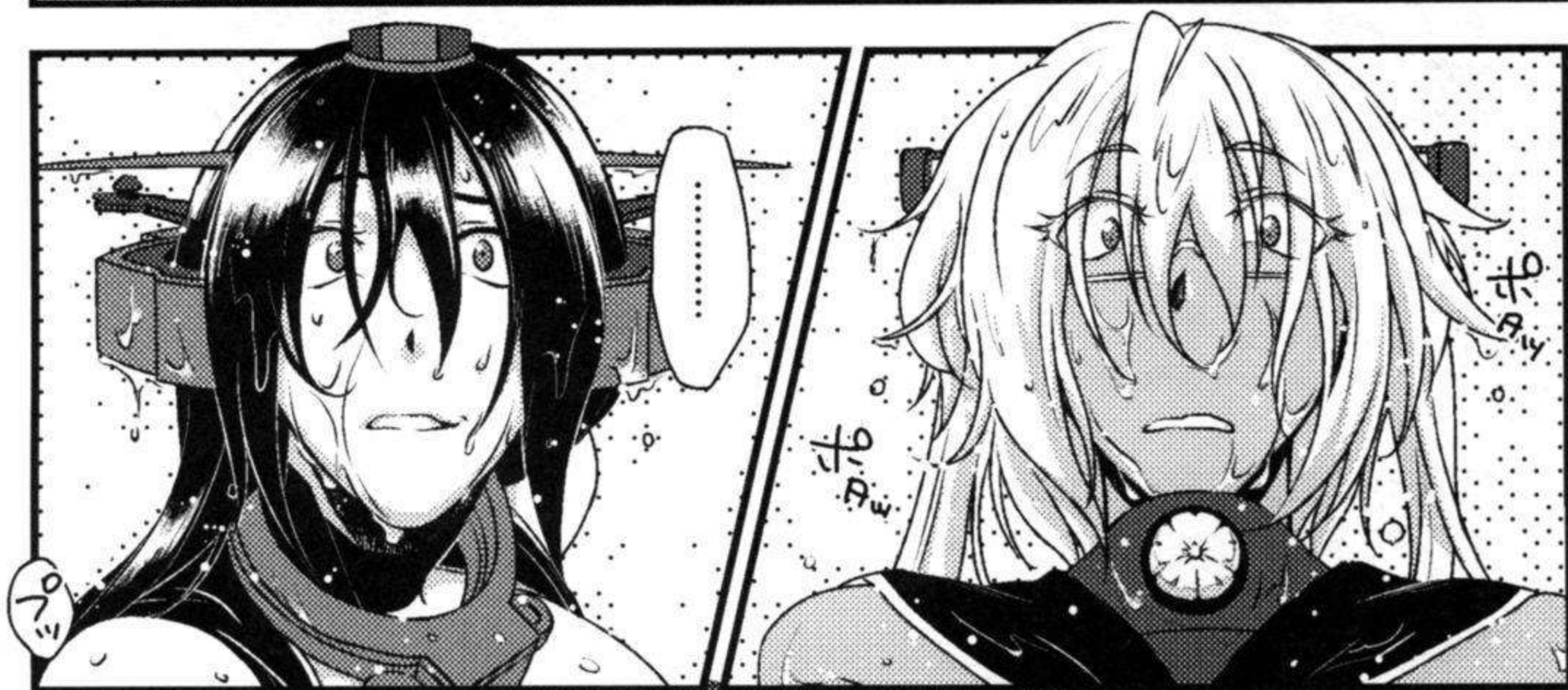
いつでもイって  
いいぞ…っ♡

私もこれ以上  
もちそうに…んっ♡

指をすごく  
締めつけてるぞ  
わかるか？  
とんだ変態戦艦だな









この度は『むさなが』本にお誘いいただき、本当にありがとうございました！

2015.9.20 だんちよう  
PixivID: 9337110  
twitter: @no\_yabo

先輩の長門が、後輩の武蔵にやられっぱなしながら、「やらせてやってるんだよ」という余裕のある態度をとって、自分を納得させている…って可愛いな〜とか妄想しながら描きました。



エロくなく  
すまな  
かった。



お誘い  
ありがとう  
ございました

ステキな企画に参加できて  
嬉しいです！  
むさなが沼の拡大を祈る！

七 @ikedukuri  
P @7279974

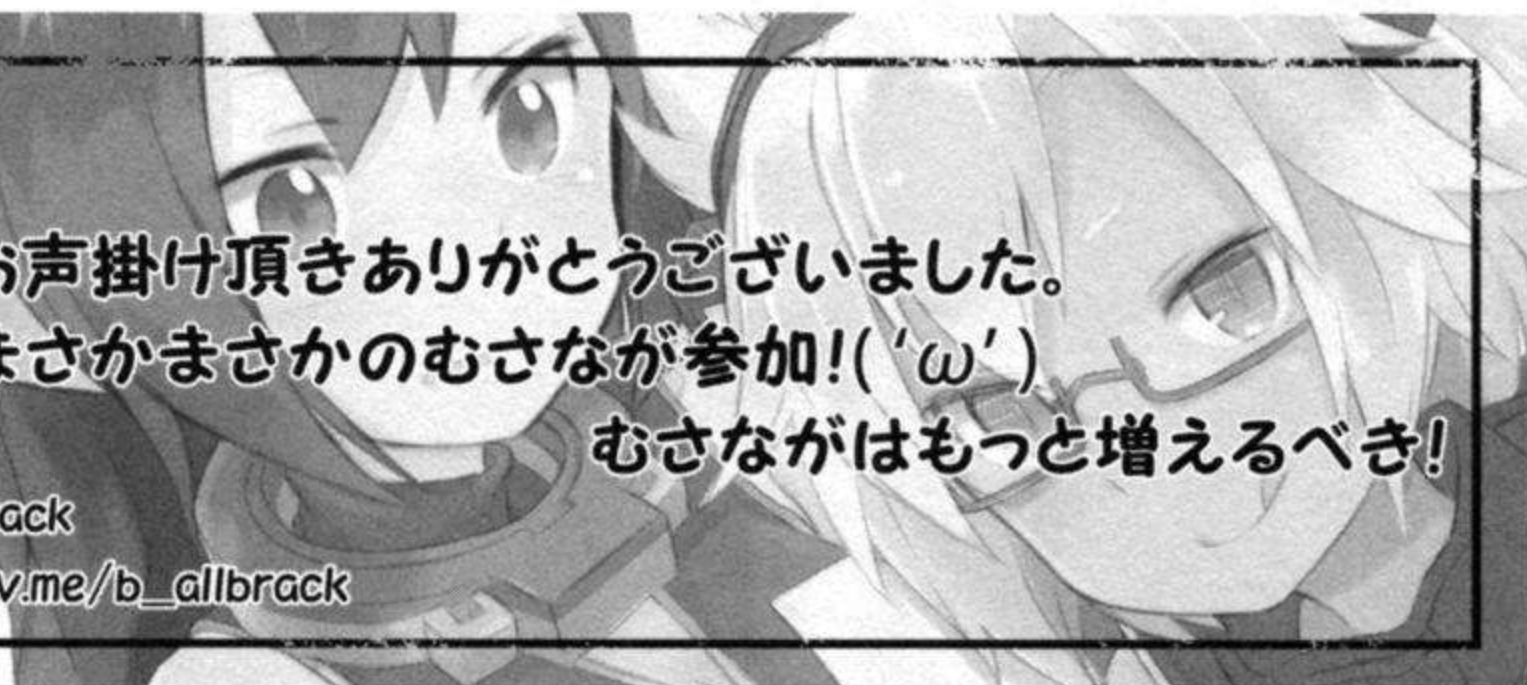


お声掛け頂きありがとうございました。  
まさかまさかのむさなが参加!( 'ω' )

むさながはもっと増えるべき!

twitter: @B\_allbrack

pixiv: [http://pixiv.me/b\\_allbrack](http://pixiv.me/b_allbrack)



描く毎に増々かわいく  
増々色っぽく感じます。

勇ましい2人も  
描いてみたいく  
なりました。



和尖



お呼びいただきありがとうございます！  
むさなが最高なんじゃ～～～！

瓜生 @uryu002



色々時間がなくて限界突破をしかけましたが  
私は元気です。

神月紫苑  
pixiv:445084  
twitter:kamitsukis



池下さんがむさなが本を出されると聞いて、これは是非とも手  
に取らなければならないと決意していたところ、なんとお声を  
かけていただき、今回寄稿させていただく事になりました。  
この本は家宝として神棚に祀っておこうと思います。  
本当にありがとうございました。

<http://pixiv.me/camosheep>



お初にお目に掛かります。あつやと申します。  
まずはむさながアンソロ発行おめでとうございます。  
この度は豪華企画にお誘い頂き、有難うございます。  
身の程も顧みず承知してしまいました、今になって後悔してます(笑)  
徒に末席を汚す身ではありますが、宜しくお願い致します。  
このような素敵企画に海よりも寛大なお心でお誘い頂いた池下様には  
多大な感謝を申し上げます。  
色々とお手数をお掛けしてご迷惑をお掛けした事、深くお詫び申し上げます。

<http://pixiv.me/atsuya10>



始めて6ページほどのエロ漫画描かせていただいたものです…  
画力の低さをいろいろやりくりしてなんとか描ききったのですが  
鑑賞に耐えれば幸いです…

今回の原稿は描いてる最中に途中でページ減ったり増えたり、  
最終ページ描き終わってから中盤のページのラフ描いたりと  
アクロバチックな進行になりました。ネームエ…

最後に、今回の原稿の仕上げを池下様にご協力頂きました！  
お忙しい中本当に有難うございました…！



この度はお誘い頂きましてありがとうございました！  
むさながアンソロですよ、むさながアンソロ。  
どこを開いてもむさなが。  
こんな素敵なご本に参加できて嬉しいです。



お忙しい中、原稿をお手伝いして下さった池下さんはじめ、  
フォロワーさんにこの場を借りてお礼申し上げます。

※私のネタはあくまでネタです。よい子は真似しないでくださいネ！

PixivID:342661





むさながに目覚めてから早いもので半年以上が経ちました。

半年前、某イラスト投稿SNSで意気揚々と検索した結果に  
膝から崩れ落ちた事もありましたが そんな事は最早過去の話です。  
今ではこんなにも沢山の皆様に認知され、愛され、  
色々な形のむさながを発信してくださる方も本当に増えました。

ついこの間までマイナーオブマイナーだったむさながでしたが  
まさかアンソロジーを発行できるまでになるとは夢にも思いませんでした。  
ひとえに支えて下さった皆様のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

このアンソロジーをきっかけにむさながに興味を持って頂いたり  
さらにむさながを好きになって頂けたら嬉しいです。

最後に 大変お忙しい中、急な誘いにも関わらず執筆を快諾して下さった  
10名の参加者様、そしてこのプチアンソロジーを手にとって下さった皆さま、  
この場を借りて心より感謝を申し上げます。

2015年9月某日 主催・池下真土

## **SPECIAL THANKS**

ゼムリカちゃん(アシスタント)  
増田とめ子さん(冊子帯推薦文)  
各所で昼夜応援して下さった皆様  
and You !

艦これ 武蔵×長門アンソロジー

# ビースト・エディション

2015年9月20日 いけちか発行

主催／池下真上(Twitter:@maue\_ike/Pixiv:ike\_shita)

連絡先／ikeshita\_maue@hotmail.com

印刷／大陽出版

制作会社・著作権元等各関係者様とは一切関係は御座いません。

作品公式関係者様への譲渡、ネットオークションへの出品、

インターネット上への無断アップロード・複写等はお止めください。

※当アンソロジーにはバイオレンス描写・ふたなりなどが含まれます。  
苦手な方は閲覧をご遠慮ください。

**COMIC**

うすかわ

鮭の骨

だんちょう

つづきますみ

池下真上

**NOVEL**

あつや

**ILLUST**

諒.B

瓜生

camo

神月紫苑

のぎぐちこひろ



★ ★ **ビースト・エモーション**  
MUSASHI × NAGATO KANTAI-COLLECTION UNOFFICIAL FANBOOK  
GIRLSLOVE ANTHOLOGY FOR ADULT ONLY  
PRESENTED BY IKECHIKA